



大迫秀八郎氏 九州支部 (09 冬季号)

当支部の訪船安全技術指導員 大迫秀八郎氏は、積極的な船員災害防止活動を初め、幾多の海事関係の安全活動に奉仕されておられるところ、この度、北九州・部埼灯台の美しい自然環境を守る会の会長として、長年の部埼灯台の重要性をよく認識し、維持管理及び周知普及活動等の奉仕活動を積極的に行うなど、海上交通の安全確保に大きく貢献して功績に対し、第七管区海上保安本部長から今年度の灯台記念日に併せて、部埼灯台名誉灯台長の称号を授与されました。

同氏には、この名誉をお祝いすると共に、今後とも、船員災害防止活動等を通して海事関係の安全確保にご活躍をお願い致します。

◇ 神戸支部長に古川社長 (09 夏季号)

6月1日に開催された神戸支部平成21年度総会・運営委員会において、八馬汽船(株)古川國丸社長が新神戸支部長に選任されました。



古川新支部長は、日本郵船を経て現在の八馬汽船社長を務められています。今回の支部長交代は、現支部長の太洋日本汽船(株)林忠男社長の同社ご退任(6月23日付け)によるものです。林社長は、川崎汽船から神戸に赴任の後、当時の原田支部長と交代して平成15年から支部長を務めていただきました。長い間神戸支部事業運営等にご尽力いただきありがとうございました。



[原田元支部長から花束を受ける林前支部長]

第62回日本船主協会総会の後、林忠男氏が同会新副会長に、古川社長は引き続き理事として務められることになっています。(6/18付け海事誌による)

[神戸支部歴代支部長]

玉井 操 (玉井商船株S43.4~S46.7)

乾 豊彦 (乾汽船株S46.7~S59.7)

原田 弘 (神戸船舶株S59.7~H15.7)

林 忠男 (H15.7~H21.7)

古川國丸 (H21.7~)

◇ 健康管理はやはり個々の自覚から(神戸支部) (09 夏季号)

柴山港で「康佑丸」渡辺船長に聞きました。

・「景気はどうですか」

昨年の燃料費急騰への不安は少しは解消したが、景気はよくない。民宿への来客が減少、近くのスーパーにも少量しか置いていない等魚離れの傾向が進み悪循環だ。浜の相場は今モノが欲しいヒトで成り立つが、地元加工・処理する業者がないのも一因だ。



・「船内での食事はどのように」

乗組員は現在9人、24～58歳の者が乗り組んでいて、平均年齢は45歳くらい。炊事当番は主に若い人がやってくれているが、好みも影響するようだ。昔はカレイ（カレイ）、エビと汁物だけだったが、今は肉類もあり陸上に近い材料を積み込んでいる。

1操業は1週間。おおまかな献立は考えているが、漁の合間に食事を取ることにになりがちで、予定通りには行かない。網を引く時間が食事の時間に食い込むと、お茶漬け程度になることも多々ある。みそしる、ラーメン、ご飯類といったところに落ち着く。船員手帳の健康診断を受けると、血圧、コレステロールで多数の乗組員が引っかかる。操業中は、エネルギーを多量に消費するので、塩分を取り過ぎがちになる。食事や睡眠不足など船内での不規則な生活のためストレスも溜まってくるのでバランスをとりにくい。

・「休漁期は運動していますか」

6、7、8月は休漁期、この間に、歩く人もいるが全員ではない。地元以外の方は地元に戻るので、船単位、地域単位で計画的に運動不足を解消するために何かやるということは困難な状況だ。船内の狭い空間での運動不足に対する危機感を持っているが、個人の意識に任すしか仕方がない。船長、機関長が病気になると船が動かなくなる。このことを知っているのだから、船長機関長の体調維持、健康維持意識は高くなる。

◇ 秋の叙勲、褒章受章者（近畿支部）

<叙勲受賞者>

1. 受賞者名 鶴田 茂資郎(つるた もしろう)(62歳)
2. 功 勞 海上勤務功勞
3. 受賞名 瑞宝単光章
4. 経 歴 関西汽船株式会社機関長
5. 現住所 大分県臼杵市

<褒章受章者>

1. 会 員 賛助会員
2. 受賞名 黄綬褒章
3. 受賞者名 高階 尚也(たかしな ひさや)(68歳)
4. 経 歴 高階救命器具株式会社社長
日本船舶品質管理協会副会長
5. 現住所 大阪府
6. その他 同社の業種
救命浮器、救命浮環、救命胴衣、
オイルフェンス、国際信号旗、形象物、
耐熱防護服等の製造販売

春の褒章受章者

近畿支部:杉山さん、中国支部:埤野さんを紹介します。

近畿支部

杉山 健一さん(元関西汽船(株)事務長)が海上勤務功労で瑞宝単光章を受章されました。

中国支部

中国支部長黄綬受章

埤野廣文中国支部長

におかれましては、この度、

22年春の褒章で黄綬褒章を受章されました。

誠におめでとうございます。



埤野廣文氏は、たをの海運㈱社長として、内航海運業の分野で事業に精励され、他の人の模範となる者としてその功績が評価されたものです。

又、事業に専念される一方で、中国海運組合連合会会長、全国海運組合連合会副会長、内航総連理事等の要職を務められ、現在も、船舶整備共有船主協会副会長、船主団体全内航会長等を務めておられ、業界の発展にもご尽力されておられるところです。

氏は、「これからの内航海運業の持続的発展のためには、若い人の知恵と工夫により、内航海運を守り育てることが重要であり、そのためにも、今後とも若い人の確保と育成等の活動に務めて参りたい。」と力を込められている。

申し上げるまでもなく、現在、船員災害防止協会中国支部長として船員災害防止対策の推進にリーダーシップを発揮して頂いているところです。

—中国支部事務局長—